

目的 本研究は1973年本学会東北支部総会で報告した「主婦の家庭管理の実態——共稼ぎ主婦を中心として——」の続編である。上記の研究において一般共稼ぎ主婦群（ホワイトカラーとブルーカラーの混成群）と食品主婦群（ブルーカラー）の管理実態を比較した結果、両者には差があった。ブルーカラーは概して管理状態が不十分で計画性が低く、一般共稼ぎ主婦群の家庭管理には圧迫された家事時間に対する側面も見られ、就労生活に適合する積極的な方策は少なく独自の家庭管理タイプを創造するまでに至っていないことが分かった。本研究は1) 新たな対象により前報の結果を検討する 2) 家業従事主婦、専業主婦と比較群とした共稼ぎ主婦の管理の特徴はあく 3) 家庭管理実態測定の指標の有効性の検証と共稼ぎ家族の福祉についてこの提言を得ることを目的とした。前報「ホワイトカラーとブルーカラーの比較」、前報「家業従事主婦について」に続き、本報では家業従事主婦との比較において共稼ぎ主婦の家庭管理実態を明らかにしその問題点を探る。

方法 前報と同様1973年報告の調査項目を一部修正した質問紙による自記式、対象は福島市田内及びその周辺に在住する主婦で、調査期日は1977年7月である。

結果 共稼ぎ主婦は、実施している家事の種類が少なく、家事の計画性や家族関係の調整度もあまり高くない。これは家業従事主婦と共通で専業主婦と異なっている。支出計画・副食費予算・家計の記憶は家業従事主婦より実施しており、献立作成・食品の購入・送金等家庭管理の重点として家族の健康とあがっている点は雇用労働者家族の特徴と思われる。